

授業科目区分	特別研究	授業対象学生	1年次～3年次 必修
授業科目名	ユーザー感性学特別研究 Advanced Study on Kansei Science		
講義題目			
授業方法及び開講学期等	通年	曜日	時限
通常授業・集中講義・臨時	通常授業		
担当教員	履修条件		
綿貫 茂喜、森 周司、樋口 重和、 金 亮 奎、南 博文、藤枝 守、 清須美 匡洋、池田 美奈子、曾我部 春香 Shigeki Watanuki, Shuji Mori, Shigekazu HIGUCHI, Yeonkyu KIM, Hirofumi Minami, Mamoru Fujieda, Masahiro Kiyosumi, MINAKO IKEDA, Haruka Sogabe	特別研究は、博士研究の骨幹をなす演習科目であるため、指導教員との相談の上、関連して習得すべき科目の履修計画をたてること。		
授業の概要			
<p>ユーザー感性学特別研究は、院生ひとりひとりが専攻の学修を総括するために実施する研究である。院生は感性についての広い視野の下に、自主的な課題設定、課題解決のための仮説考案、検証方法の決定、仮説検証、体系的説明という一連の知識創造プロセスに自ら取り組む。院生は、論文、成果発表等により本専攻で涵養した能力を総合的に実証することが求められる。担当指導教員は研究計画の立案、実行、論文、発表等を指導する。特別研究が専攻修了にふさわしい能力を実証しているかどうかは複数の教員が判定する。各教員の指導担当は、以下のとおりとする。</p> <p>綿貫 茂喜: 感覚生理、感情生理、生理人類学に関連した研究 森 周司: 認知科学、認知心理学、知覚心理学に関連した研究 樋口 重和: 感性人類学、適応行動に関連した研究 金 亮 奎: 感性生理学、共感、美意識、母性に関連した研究 南 博文: チャイルド・ライフ、環境心理、発達心理に関連した研究 藤枝 守: 音による感性表現、サウンドデザイン、音環境に関連した研究 清須美 匡洋: ブランド価値創成、プロモーションデザイン、ソーシャルクスペリエンスデザインに関連した研究 池田 美奈子: 情報価値編集、情報デザイン、地域ブランドに関連した研究 曾我部 春香: クオリティカルテ価値評価、公共に関わるデザインに関連した研究</p>			
全体の教育目標			
<p>指導教員の指導を受けながら、自らの問題意識と研究計画に基づいて自主研究として取り組んでいく。課題設定、仮説考案、仮説検証、体系的説明、という一連の知識創造プロセスに自ら取り組むことで、統合的な知的能力及び社会現場の問題・課題に対する課題解決能力を涵養させる。</p>			
個別の学習目標			
授 業 計 画			
<p>研究の期間を次のように区分し、指導教員のもとで研究にあたる。期間中は適宜、指導教員に進捗を報告し、意見交換を行うとともに研究指導を受ける。</p> <p>(I) 研究計画設定(テーマ、フィールド、方法)</p>			

<p>(Ⅱ) 研究実施 (Ⅲ) 研究成果のとりまとめ 及び 研究成果発表 (論文、学会発表等)</p>
<p>キーワード</p>
<p>授業の進め方</p>
<p>教科書及び参考図書 学生の研究計画に応じて、参考書等につき適宜アドバイスをしていく。</p>
<p>学習相談</p>
<p>試験・成績評価等 (評価方法) (1)仮説検証の方法は、研究計画に応じて実験・調査・実践などを選択できるものとする。(2)研究成果の取りまとめの形式は、論文、調査報告、実践レポートなど、研究計画に応じて選択できるものとする。(3)研究成果を取りまとめ、学会等で発表を行う。(4)各年度、研究の進捗状況を確認するために中間発表会を行う。(5)特別研究が専攻修了にふさわしい能力を実証しているかどうかは複数の教員が判定する。 (評価基準) ・演習:30% ・研究成果の取りまとめ:50% ・発表:20%</p>
<p>その他 特になし</p>

授業科目区分	分野専門科目	授業対象学生	1 年次・前期 選択
授業科目名	感性科学特論 Advanced Lecture on Kansei Research		
講義題目			
授業方法及び開講学期等	前期 月曜日 4時限	単位数	2 単位
通常授業・集中講義・臨時	通常授業		
担当教員 綿貫 茂喜、森 周司、樋口 重和、 金 亮 奎 Shigeki Watanuki, Shuji Mori, Shigekazu HIGUCHI, Yeonkyu KIM	履修条件 特になし		
授業の概要 感性を定義し、修士課程で概説している感受性、感覚、情動に加え、進化、遺伝、意識、脳機能などのキーワードを中心に感性科学の現状と展望を学習する。次に、感性を科学するための自然科学的アプローチと人文科学的アプローチからなる方法論を学ぶ。さらに、感性を科学することにより可能となった高付加価値製品やサービスの開発事例を用い、感性を重視した製品開発やコミュニケーションのあり方を学ぶ。			
全体の教育目標 より安全・安心で心豊かな社会を構築するために、自然科学の対象から外されていた感性を分析的方法論を用いて科学する意義を理解させる。そして、感性科学の現状と今後の発展性を習得させると共に、感性を重視した製品開発やコミュニケーションのあり方を理解させる。			
個別の学習目標			
授 業 計 画 (第 1 回): 感性とは何か (綿貫) (第 2 回): 感性研究による新しい世界観の創造 (綿貫) (第 3 回): ヒトの感性と感覚感受性 (綿貫) (第 4 回): ヒトの感性と情動感受性 (綿貫) (第 5 回): 感性と感覚・情動感受性に関するディスカッション (綿貫) (第 6 回): ヒトの感性と進化 (樋口) (第 7 回): ヒトの感性と遺伝 (樋口) (第 8 回): 感性と進化及び遺伝に関するディスカッション (樋口) (第 9 回): ヒトの感性と意識 (森) (第 10 回): ヒトの感性と無意識 (森) (第 11 回): 感性と意識及び無意識に関するディスカッション (森) (第 12 回): ヒトの脳機能の研究法 (金) (第 13 回): ヒトの感性と脳機能に関する研究の現状と展望 (金) (第 14 回): 感性と脳機能に関するディスカッション (金) (第 15 回): 総括討論(綿貫、樋口、森、金)			
キーワード			

授業の進め方
教科書及び参考図書 その都度、適宜資料等を配布する。
学習相談
試験・成績評価等 (評価方法) (1)授業の中で感性科学分野の研究についての討論を数回行う。(2)関心のある感性科学分野の研究についてレポートを2000字程度で作成し、提出する。以上を下記の観点・割合で評価する。 なお出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。 (評価基準) ・討論:50% ・レポート:50%
その他 特になし

授業科目区分	分野専門科目	授業対象学生	1 年次・前期 選択
授業科目名	感性コミュニケーション特論 Advanced Lecture on Kansei Communication		
講義題目			
授業方法及び開講学期等	前期	曜日	時限
通常授業・集中講義・臨時	通常授業		
単位数	2 単位		
担当教員 南 博文・藤枝 守 Hirofumi Minami, Mamoru Fujieda	履修条件 特になし		
授業の概要 感性コミュニケーションに関わる哲学、心理学等を始めとする人文諸科学の関連する考えを学習する。次に、修士課程で概説しているコミュニケーション、チャイルド・ライフ、暗黙知に加え、美学、文化環境、芸術創造などのキーワードを中心に感性コミュニケーション研究の現状と展望を学習する。さらに、社会現場での感性コミュニケーション分野の取り組みについての理解を深める。			
全体の教育目標 人文科学・社会科学・芸術における感性コミュニケーション研究の現状と展望を学習すると共に、感性を通じた人と人の通じ合いの現象について体験を通して実感的に理解させる。			
個別の学習目標			
授 業 計 画 (第 1 回)：感性コミュニケーションとは (南) (第 2 回)：コミュニケーションという見方によって開かれるもの (南) (第 3 回)：感性コミュニケーションの展望に関するディスカッション (南) (第 4 回)：子どもの発達の基本理論 (南) (第 5 回)：チャイルド・ライフの基本知識 (南) (第 6 回)：チャイルド・ライフに関する研究の現状と展望(南) (第 7 回)：文化的営みとしての生涯発達論(1) (南) (第 8 回)：文化的営みとしての生涯発達論(2) (南) (第 9 回)：文化環境とコミュニケーション(1) (南) (第 10 回)：文化環境とコミュニケーション(2) (南) (第 11 回)：感性表現論(1) (藤枝) (第 12 回)：感性表現論(2) (藤枝) (第 13 回)：芸術創成と感性表現 (藤枝) (第 14 回)：芸術創成と感性表現に関するディスカッション (藤枝) (第 15 回)：総括討論(南、藤枝)			
キーワード			
授業の進め方			

教科書及び参考図書 その都度、適宜資料等を配布する。
学習相談
試験・成績評価等 (評価方法) (1)授業の中で感性コミュニケーション分野の研究についての討論を数回行う。(2)関心のある感性コミュニケーション分野の研究についてレポートを2000字程度で作成し、提出する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。 (評価基準) ・討論:50% ・レポート:50%
その他 特になし

授業科目区分	分野専門科目	授業対象学生	1 年次・前期 選択
授業科目名	感性価値クリエーション特論 Advanced Lecture on Kansei Value Creation		
講義題目			
授業方法及び開講学期等	前期	曜日	時限
通常授業・集中講義・臨時	通常授業		
担当教員 清須美 匡洋、池田 美奈子、曾我部 春香 Masahiro Kiyosumi, MINAKO IKEDA, Haruka Sogabe	履修条件 特になし		
授業の概要 感性価値を定義し、感性価値の抽出、形成、評価、マネジメントといった感性価値創造プロセス及びモノ・コト・場の開発に活かす戦略的方法論を学ぶ。次に、修士課程で概説しているデザイン、ブランド、価値に加え、地域文化、イノベーション、評価などのキーワードを中心に感性価値クリエーション研究の現状と展望を学習する。さらに、感性価値クリエーションが社会や産業に果たす役割と意義についての理解を深める。 At the end of the course, students are expected to define KANSEI value and understand storategic methology to make use of products, services and place development and process as extraction, formation, evaluation and management of KANSEI value creation. And students are expected to understand the present conditions and future prospects of KANSEI value creation study with some key words as local culture, innovation and evaluation, in addition of key words outlined in the master's course as design, brand and value. Moreover, helping students to develop understanding the role and meaning of KANSEI value creation for our society and industryies.			
全体の教育目標 感性価値創造の意義と役割、感性価値評価、編集・マネジメント、そして社会への価値提供へ至る、感性価値創造プロセスのあり方と効果を理解させる。			
個別の学習目標			
授 業 計 画 (第 1 回)：感性価値クリエーションとは (第 2 回)：感性価値デザインの現状と展望 (第 3 回)：ブランド価値創成の現状(1) (第 4 回)：ブランド価値創成の現状(2) (第 5 回)：ブランドとデザイン (第 6 回)：ブランドとイノベーション(1) (第 7 回)：ブランドとイノベーション(2) (第 8 回)：ブランドとイノベーションに関するディスカッション (第 9 回)：編集とは何か (第 10 回)：情報価値と編集 (第 11 回)：編集の方法 (第 12 回)：編集の応用に関するディスカッション			

<p>(第 13 回)：クオリティカルテ価値評価とは</p> <p>(第 14 回)：クオリティカルテ価値評価の現状と展望</p> <p>(第 15 回)：総括討論</p>
<p>キーワード</p>
<p>授業の進め方</p>
<p>教科書及び参考図書</p> <p>その都度、適宜資料等を配布する。</p>
<p>学習相談</p>
<p>試験・成績評価等</p> <p>(評価方法)</p> <p>(1)授業の中で感性価値クリエーション分野の研究についての討論を数回行う。(2)関心のある感性価値クリエーション分野の研究についてレポートを 2000 字程度で作成し、提出する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>(評価基準)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・討論：50% ・レポート：50%
<p>その他</p> <p>特になし</p>

授業科目区分	分野専門科目	授業対象学生	1 年次・後期 選択
授業科目名	上級PTL演習A Advanced Kansei Science PTL A		
講義題目			
授業方法及び開講学期等	後期 月曜日 4～5時限	単位数	2 単位
通常授業・集中講義・臨時	通常授業		
担当教員 樋口 重和、金 亮 奎 Shigekazu HIGUCHI, Yeonkyu KIM	履修条件 特になし		
授業の概要 修士課程で開講されているユーザー感性学PTL(感性科学Ⅱ)を受講する修士課程の学生と共に、美術館における展示方法、食卓の照明、病院の室内環境(照明、インテリア)などの社会現場の課題にリアルタイムに取り組み、実践的に学習する。博士後期課程の学生は修士課程の学生を指導するチームリーダーとして、演習の円滑な運営を担当する。これらの実践を通じて、知の体系化を図ると共に、総合的な人間力の向上や職業的自立に必要な能力を培う。			
全体の教育目標 感性科学に関連し、企業、行政、地域社会等、現場が抱える課題を題材に、コース横断的なチームで取り組むことを通して、問題把握、アイデア創発、集団的な知識創造、仮説設定、解決提示、評価、という感性価値創造プロセスを実践、推進していく素養を身につけさせる。			
個別の学習目標			
授 業 計 画 (第 1 回): クライアントとの会議に参加 (第 2 回): プロジェクト内容説明及びチームビルディング (第 3 回): プロジェクト推進(現場訪問 1) (第 4 回): プロジェクト推進(問題把握 1) (第 5 回): プロジェクト推進(現場訪問 2) (第 6 回): プロジェクト推進(文献調査) (第 7 回): プロジェクト推進(理論的枙組みの構築) (第 8 回): プロジェクト推進(文献調査内容発表及び討論、仮説設定) (第 9 回): プロジェクト推進(調査・実験計画) (第 10 回): プロジェクト推進(調査・実験 1) (第 11 回): プロジェクト推進(調査・実験 2) (第 12 回): プロジェクト推進(調査・実験データの処理) (第 13 回): プロジェクト推進(仮説検定・理論的枙組みの再構築) (第 14 回): プロジェクト推進の成果発表及び討論 (第 15 回): クライアントへの成果報告会			
キーワード			
授業の進め方			

教科書及び参考図書 その都度、適宜紹介する。
学習相談
試験・成績評価等 (評価方法) (1)クライアントへの成果報告会を実施し、チームによる成果報告についてのクライアントの意見を聞き、それを参考に評価する。(2) 成果についてレポートを 5000 字程度で作成し、提出する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。 (評価基準) ・発表:70% ・レポート:30%
その他 特になし

授業科目区分	分野専門科目	授業対象学生	1年次・後期 選択
授業科目名	上級PTL演習B Advanced Kansei Science PTL B		
講義題目			
授業方法及び開講学期等	後期 水曜日 3～4 時限	単位数	2 単位
通常授業・集中講義・臨時	通常授業		
担当教員 南 博文、藤枝 守 Hirofumi Minami, Mamoru Fujieda	履修条件 特になし		
授業の概要 修士課程で開講されているユーザー感性学PTL(感性コミュニケーションⅡ)を受講する修士課程の学生と共に、子どもプロジェクト、ミュージアム・コミュニケーション、医療コミュニケーションなどの社会現場の課題にリアルタイムに取り組み、実践的に学習する。博士後期課程の学生は修士課程の学生を指導するチームリーダーとして、演習の円滑な運営を担当する。これらの実践を通じて、知の体系化を図ると共に、総合的な人間力の向上や職業的自立に必要な能力を培う。			
全体の教育目標 感性コミュニケーションに関連し、企業、行政、地域社会等、現場が抱える課題を題材に、コース横断的なチームで取り組むことを通して、問題把握、アイデア創発、集団的な知識創造、仮説設定、解決提示、評価、という感性価値創造プロセスを実践、推進していく素養を身につけさせる。			
個別の学習目標			
授 業 計 画 (第 1 回): クライアントとの会議に参加 (第 2 回): プロジェクト内容説明及びチームビルディング (第 3 回): プロジェクト推進(現場訪問 1) (第 4 回): プロジェクト推進(問題把握 1) (第 5 回): プロジェクト推進(現場訪問 2) (第 6 回): プロジェクト推進(文献調査) (第 7 回): プロジェクト推進(集団的な知識創造 1) (第 8 回): プロジェクト推進(集団的な知識創造 2) (第 9 回): プロジェクト推進(理論的枙組みの構築) (第 10 回): プロジェクト推進(仮説設定) (第 11 回): プロジェクト推進(現場検証 1) (第 12 回): プロジェクト推進(現場検証 2) (第 13 回): プロジェクト推進(仮説検定・理論的枙組みの再構築) (第 14 回): プロジェクト推進の成果発表及び討論 (第 15 回): クライアントへの成果報告会			
キーワード			
授業の進め方			

教科書及び参考図書 その都度、適宜紹介する。
学習相談
試験・成績評価等 (評価方法) (1)クライアントへの成果報告会を実施し、チームによる成果報告についてのクライアントの意見を聞き、それを参考に評価する。(2) 成果についてレポートを 5000 字程度で作成し、提出する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。 (評価基準) ・発表:70% ・レポート:30%
その他 特になし

授業科目区分	分野専門科目	授業対象学生	1 年次・後期 選択
授業科目名	上級PTL演習C Advanced Kansei Science PTL C		
講義題目			
授業方法及び開講学期等	後期 金曜日 1～2 時限	単位数	2 単位
通常授業・集中講義・臨時	通常授業		
担当教員 清須美 匡洋、池田 美奈子 Masahiro Kiyosumi, MINAKO IKEDA	履修条件 特になし		
授業の概要 <p>修士課程で開講されているユーザー感性学PTL(感性価値クリエーションⅡ)を受講する修士課程の学生と共に、博多駅の未来デザイン、地域産業ルネサンス、福岡市トータルブランドデザインなどの社会現場の課題にリアルタイムに取り組み、実践的に学習する。博士後期課程の学生は修士課程の学生を指導するチームリーダーとして、演習の円滑な運営を担当する。これらの実践を通じて、知の体系化を図ると共に、総合的な人間力の向上や職業的自立に必要な能力を培う。</p> <p>The aim of this course is to help students to acquire practical skills through working on the social problems in real time as future design of Hakata Station, local industry Renaissance or total brand design of Fukuoka City etc., with students of master's course attending a class : user KANSEI Science PTL(Kansei value creation II.) for master's course students.</p> <p>In this course, doctoral students will be in charge of smooth operations of its exercises as a team leader to guide students of the master's course.</p> <p>Through these practices, along with the attempt to systematization of knowledge, students are expected to cultivate the necessary skills to improve overall human power and for vocational independence.</p>			
全体の教育目標 <p>感性価値クリエーションに関連し、企業、行政、地域社会等、現場が抱える課題を題材に、コース横断的なチームで取り組むことを通して、問題把握、アイデア創発、集団的な知識創造、仮説設定、解決提示、評価、という感性価値創造プロセスを実践、推進していく素養を身につけていく。</p>			
個別の学習目標 			
授 業 計 画 (第 1 回)：クライアントとの会議に参加 (第 2 回)：プロジェクト内容説明及びチームビルディング (第 3 回)：プロジェクト推進(現場訪問 1) (第 4 回)：プロジェクト推進(問題把握 1) (第 5 回)：プロジェクト推進(現場訪問 2) (第 6 回)：プロジェクト推進(文献調査) (第 7 回)：プロジェクト推進(集団的な知識創造) (第 8 回)：プロジェクト推進(理論的枠組みの構築) (第 9 回)：プロジェクト推進(仮説設定) (第 10 回)：プロジェクト推進(プロトタイプ制作 1) (第 11 回)：プロジェクト推進(プロトタイプ制作 2) (第 12 回)：プロジェクト推進(プロトタイプ検証)			

<p>(第 13 回): プロジェクト推進(仮説検定・理論的枠組みの再構築)</p> <p>(第 14 回): プロジェクト推進の成果発表及び討論</p> <p>(第 15 回): クライアントへの成果報告会</p>
<p>キーワード</p>
<p>授業の進め方</p>
<p>教科書及び参考図書</p> <p>その都度、適宜紹介する。</p>
<p>学習相談</p>
<p>試験・成績評価等</p> <p>(評価方法)</p> <p>(1)クライアントへの成果報告会を実施し、チームによる成果報告についてのクライアントの意見を聞き、それを参考に評価する。(2) 成果についてレポートを 5000 字程度で作成し、提出する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。</p> <p>(評価基準)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表: 70% ・レポート: 30%
<p>その他</p> <p>特になし</p>